

農業委員会だより

■ 発行人 飯山市農業委員会 伊澤春一
■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会

ふきのとう

10.3
No.181

信州食肉マイスター認定証授与式開催

長野県が主催する、平成21年度信州食肉マイスター認定証授与式が去る2月19日にNOSAー長野会館で行われ、常盤地区養豚農家の佐藤良昭さん、弘子さん夫妻が認定されました。

この認定は、今年で3回目となり、長年培ったこだわりの飼養管理技術で、優秀な成績を上げている畜産農家をマイスターに認定し、特色ある畜産経営について研修し、さらに飼養管理技術を磨いてもらうもので、養豚で授与があったのは佐藤夫妻が初めてです。審査は、畜産試験場、全



マイスターに認定された佐藤さん(左)と
長野県農政部の秋原部長

あぜ道だより



農業委員 竹井 政志
(飯山地区)

春の足音

雪まつりが終わり、日本列島も南の方から春一番の便りが聞かれる。
飯山地方は、家の周り、特に北側などにまだ固い雪がドンと居座っているが、春めいた温かい陽ざしで徐々にその雪の固まりが小さくなってきている。スコッ

プを突きたててみると、表面より土に接触している部分がザクザクつくすぐれ落ちて、もう春の準備が始まっている。

先日ラジオを聞いていたら「信州の女性はこうして元気で長生きなのか」というコーナーがあった。その理由のひとつは、冬や夏の仕事の合い間に数人が寄り集まって「お茶飲み」なのだと言う。

お茶に含まれる成分とお茶うけで出てくる発酵した野沢菜漬けが、女性の健康を保つためにとても有効であるともいう。

野沢菜漬けにも、その家ごとに秘伝がある。

「この頃、べつ甲色した味噌粒の混じったものが珍しくなった。あれなら、どんぶり一杯食べるのに」と懐かしそうに言う家人。

また、野沢菜漬けの味に酸味が増し、煮物に姿を変える頃は「春」だとも言う。農産物の自由化ストッブ、

価格補償や所得補償の充実などが言われるなかでも、地域農業を発展させる「地産地消」で日本各地でがんばっているニュースが届く。

飯山のお茶飲みは、健康と農村を育てる大切な場であるのかもしれない。

老後生活の備えは

農業者年金の

加入から

- ◎加入できる方
 - ・国民年金の第1号被保険者である者
 - ・60歳未満の者
 - ・年間60日以上農業に従事する者
- ◎加入や脱退は自由
 - 加入や脱退はいつでも自由にできます。
- ◎積立方式のため保険料は自分で決定
 - 毎月の保険料は2万円から6万7千円まで千円単位で自由に決められ、いつでも金額を変更できます。

◎65歳から受給できます

終身年金で、80歳前に亡くなった場合は、80歳までに受け取るはずであった年金額を、また65歳前(年金受給前)に亡くなった場合には、死亡一時金を遺族の方が受け取れます。

◎農業者年金ならではの特別メリット

保険料は全額が所得税の社会保険料控除の対象に、また受け取る年金は公的年金控除の対象になります。

◎保険料への助成制度があります

60歳までに20年以上加入することが見込まれ、その他定められた条件を満たした場合、基本保険料(2万円)のうち国から2割〜5割の助成を受けることができます。

加入を希望される方、詳しく知りたい方は、農業委員、農業委員会事務局(☎023-111内線261)またはJA窓口までお問い合わせください。

地産地消の現場から

「道の駅 千曲川」農産物直売所を訪ねて

「地産地消」が人気です。運営するJA北信州みゆきの担当者に出荷方法や売れ行きの現状をお聞きしました。

.....

—— 運営方法は

市から建物を借り受け、平成14年から農協で運営しています。

—— 仕入はどのように

ほとんどが会員からの委託販売で、農協扱いの交流商品も少しあります。

—— 会員になるには

生産者の方は、直接来店して会員登録をしていただき、並びに出荷前の栽培履歴のチェックを受けてから、お持ちいただいた農産物に、生産者個人ごとのバーコードをつけて出荷となります。



道の駅「千曲川」

出荷いただいた農産物は、規定手数料等を差し引いた後、振込精算させていただきます。

—— 会員数は

現在は約550人で徐々に増え続けています。

常時、出荷している人は約100人ほどで、作ったものが収入につながることで、励みになったり、生きがいになっているなどの声を聞きます。

—— 値づけはどのように

基本的には各人の自由ですが、極端に高かったり、安かったりすると他の出荷者にも影響が出るので、バランスを考えて値づけをしていただき、わからなければ、店員に気軽に相談してもらっています。

また売れ残った場合には、引き取ってもらうのがルールとなっています。—— お客さんは主にどこから



店内風景

駐車場を利用するお客さんの状況などから、JA北信州みゆき管外から95パーセント以上で、県外からは特に新潟県のお客さんが多く来店されます。

ほか、野沢温泉村と飯山市の方の利用がみられます。

新潟県の人にはリンゴやキノコが好評です。

—— 売れ筋は

春は雪下ニンジン、冬場ではキノコやリンゴなどで、やはり数量では、春先のアスパラガスが一番多く出ています。

—— 売り方の工夫は

消費者の幅広いニーズに応じて、野菜を多種多品目でそろえていきたいので、生産者の方には、出荷時の工夫してもらえれば、消



店内風景

費者にも喜ばれます。

—— 生産者に望むことは

JA北信州みゆきのホームページの「直売所情報コーナー」に消費者向けの野菜の入荷状況などのお知らせがあるので、上手に活用してもらえればと考えています。

また、直売所の魅力のひとつには「消費者と生産者との交流」があるので、出荷に来る際などには、お客さんに気軽に声をかけることを心がけてもらえれば、お互いにいい情報交換の場になるのではないかと思います。

—— 今後の方向づけは

今は地産地消ブームで、近隣にも同種の店舗が増えてきていますが、今後とも「安全・安心・美味・新鮮」

をモットーに消費者に喜ばれる農産物を提供して参りたいと思います。

.....

市内や近隣でとれた農作物が棚にあふれており、時期には駐車場がいっぱいになることもあるといいます。

このような地場農産物の出荷や消費が増えることで、消費者と生産者が結びつき、魅力ある農業や農村づくり役に役立ってもらえればと思います。

飯山市農業賞

大日方豊さんを表彰

市農業委員会では毎年、市の農村・農林業の振興発展に尽力された方を表彰しており、今年度は常盤地区戸隠の大日方豊さんにお贈りしました。
大日方さんは有志とともに、常盤千曲川堤外地の遊休荒廃農地200アールを活用して、枝豆栽培や玉ねぎなどの栽培を進めています。増加傾向の遊休農地を活用することが評価されたもので、今後、大いに活動が期待されるものです。